

さくらUTOPIAクラウド IaaSサービス
VMware Cloud Director
利用マニュアル

株式会社さくらケーシーエス
データセンター

2023年10月

【目次】

1. はじめに.....	3
2. ご利用環境について.....	3
3. サービスご利用の流れ.....	4
4. ログインページ.....	5
4.1. アクセス方法.....	5
4.2. ログイン.....	5
4.3. ログアウト.....	6
5. 基本的な操作方法.....	7
5.1. vApp 一覧にアクセスする.....	7
5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする.....	8
5.3. カタログ一覧にアクセスする.....	9
5.4. vApp テンプレート一覧にアクセスする.....	9
5.5. メディア一覧にアクセスする.....	10
6. 仮想マシンを作成する.....	11
6.1. テンプレートとは.....	11
6.2. 新規に vApp を構築.....	11
7. 仮想マシンのリソースを変更する.....	18
7.1. 仮想マシンのリソースを変更する.....	18
7.2. CPU の数を変更する.....	19
7.3. メモリサイズを変更する.....	20
7.4.1. ハードディスクサイズを変更する.....	21
7.4.2. ハードディスクを追加する.....	22
7.4.3. ハードディスクを削除する.....	23
7.5.1. ネットワークを変更する.....	24
7.5.2. ネットワークを追加する.....	25
7.5.3. ネットワークを削除する.....	26
7.6. 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項.....	27
8. 仮想マシンを操作する.....	29
8.1. 仮想マシンを起動する.....	29
8.2. 仮想マシンを操作する.....	30
9. 公開カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項.....	32
9.1. 初回ログイン時の流れ.....	32
10. OS をインストールする.....	35
11. VMware Tools をインストールする.....	41

11.1. VMware Tools とは.....	41
11.2. VMware Tools のインストール準備を行う	41
11.3. Windows 環境で VMware Tools のインストールする.....	43
11.4. Linux 環境で VMware Tools をインストールする.....	46
1 2. 仮想マシンのバックアップ・リストア	48
12.1. バックアップに必要なディスク容量.....	48
12.2. バックアップの種類	48
1 3. スナップショットを使用する	49
13.1. スナップショットを作成する	49
13.2. 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す.....	52
13.3. スナップショットを削除する	54
1 4. カタログを使用する	56
14.1. カタログを作成する	56
14.2. vApp テンプレートを作成する.....	57
14.3. vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する.....	59
14.4. 作成した vApp テンプレートを削除する	61
14.5. 手元にあるメディアをアップロードする	62
14.6.メディアを仮想マシンに挿入する	63
14.7.メディアを仮想マシンから取り出す	64
14.8. アップロードしたメディアを削除する	65
14.9. カタログを削除する	66
1 5. パスワードを変更する.....	67
付録 1. ライセンスについて	68

1. はじめに

本書では弊社さくら UTOPIA クラウド IaaS サービスをご契約されているお客様が、VMware Cloud Director をご利用頂くための、基本的な操作・設定方法について説明しております。

また、最新のマニュアルにつきまして下記 URL をご確認ください。

<https://www.kcs.co.jp/ja/service/utopia/download.html>

2. ご利用環境について

お客様が VMware Cloud Director をご利用頂くために必要な環境は以下の通りです。

■ ブラウザ

次のブラウザの最新および以前のメジャー リリースと互換性があります。

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge
- Microsoft Internet Explorer 11

※ブラウザが Microsoft Internet Explorer 11 の場合、「8.2. 仮想マシンを操作する」が実行できません。「8.2. 仮想マシンを操作する」を実行する場合は別のブラウザをご利用ください。

本書内の表記法について

本書では以下の表記法を使用しております。

- 下線 … 操作の際に実際に入力する項目を意味します。
- [] … 操作の際にクリックするリンク・ボタンを意味します。
- ”” … 仮想マシン等のステータスを意味します。
- 「 」 … 本書に記載されている別章を意味します。
また、画面名やダイアログ名、参照する場所などを示す場合も
鍵カッコ (「」) で囲んであらわします。
- 『 』 … 別紙の資料名を意味します。

3. サービスご利用の流れ

サービスをご利用になる際の手順は、以下のようになります。

ステップ	内容
1. 事前準備	サービスご利用開始時にお渡ししております、以下の書類をご準備ください。 <ul style="list-style-type: none">『サービス開始／変更のお知らせ』…ログインページの URL や、ログインに必要なユーザー名・パスワード等が記載されています。
2. ログイン	Web ブラウザにてログインページにアクセスし、ユーザー名とパスワードの認証を行います。 (詳細は、「4. ログインページ」をご参照ください。)
3. 仮想マシン作成	VMware Cloud Director にて仮想マシンを作成します。 (詳細は、「6. 仮想マシンを作成する」をご参照ください。)
4. 仮想マシンのリソース変更	VMware Cloud Director にて作成した仮想マシンのリソースを変更します。 (詳細は、「7. 仮想マシンのリソースを変更する」をご参照ください。)
5. 仮想マシンの操作	仮想マシンを操作します。 (詳細は、「8. 仮想マシンを操作する」をご参照ください。)
6.OS のインストール	カタログを使用せずに仮想マシンを作成した場合、OS・VMware Tools をインストールします。 (詳細は、「10. OS をインストールする」「11. VMware Tools をインストールする」をご参照ください。)

4. ログインページ

4.1. アクセス方法

Web ブラウザにて、『サービス開始／変更のお知らせ』に記載しております、URL にアクセスしてください。

<重要>

2020年12月より URL が変更になりました。

変更前 <https://iaas-vcd.sakura-utopia.jp/cloud/org/XXXXX>

変更後 <https://iaas-vcd.sakura-utopia.jp/tenant/XXXXX>

4.2. ログイン

- ① URL にアクセスすると、以下のログインページが表示されます。
『サービス開始／変更のお知らせ』に記載のユーザー名とパスワードをそれぞれ、ユーザー名、パスワードに入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

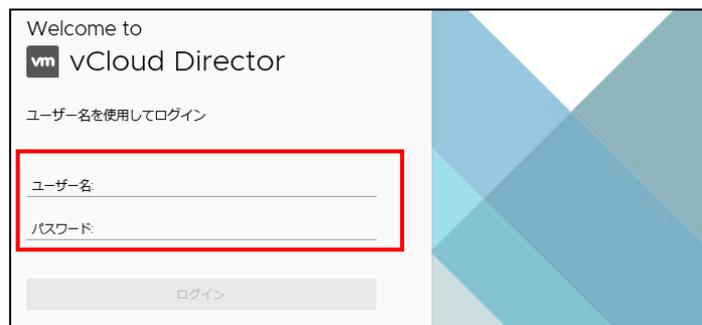


図 4.2.1 ログインページ-1

- ② ログインに成功した場合は以下のような画面が表示されます。



図 4.2.2 ログインページ-2

- ③ [ログイン]ボタンをクリック後、以下のメッセージが表示された場合は、以下の原因が考えられます。
- ユーザー名、又はパスワードの入力に誤りがあります。
 - URL (<https://iaas-vcd.sakura-utopia.jp/tenant/XXXXX>) の XXXXX 部分に誤りがあります。

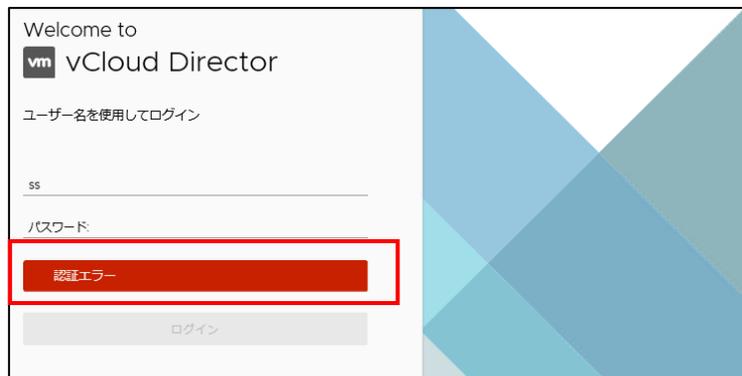


図 4.2.3 ログインページ-3

この場合、以下の点について誤りが無いかご確認ください。

- URL が間違えていないか。
- ご利用ユーザー名・パスワードが間違えていないか。
- キーボードの NumLock キー、CapsLock キーが ON になっていないか。

また、連続して 5 回ログインに失敗した場合、同様のページが表示されます。この場合は一定時間 (約 10 分) ログインをお待ちいただきますようお願いいたします。

4.3. ログアウト

- ① 画面右上にある[ログイン名]部分をクリックし、[ログアウト]をクリックするとログアウトできます。



図 4.3.1 ログアウト-1

- ② ログアウトすると、以下の画面が表示されます。再ログインする場合は、[統合ユーザーとしてログイン]をクリックするとログイン画面が表示されます。



図 4.3.2 ログアウト-2

5. 基本的な操作方法

VMware Cloud Director でよくアクセスする機能 (vApp、仮想マシン、カタログ、vApp テンプレート、メディア) へのアクセスする手順は、以下のようになります。

5.1. vApp 一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある [データセンター] をクリックします。

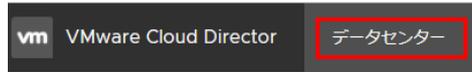


図 5.1.1 vApp 一覧にアクセスする-1

- ② 仮想データセンターの下にある [XXXXX-VDC] の枠をクリックします。

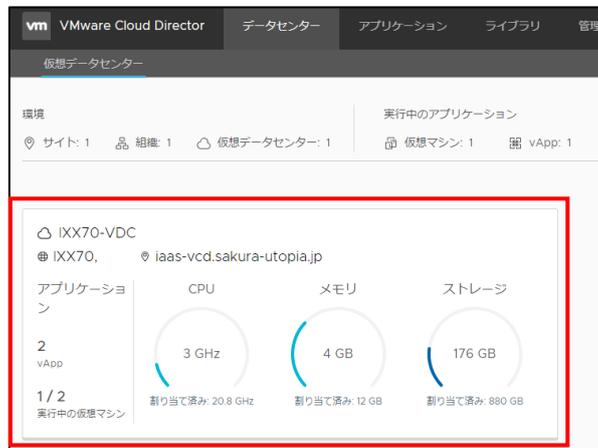


図 5.1.2 vApp 一覧にアクセスする-2

- ③ 画面左にある [vApp] をクリックします。



図 5.1.3 vApp 一覧にアクセスする-3

5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある [データセンター] をクリックします。

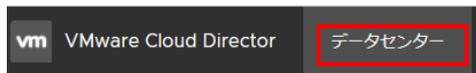


図 5.2.1 仮想マシン一覧にアクセスする-1

- ② 仮想データセンターの下にある [XXXXX-VDC] の枠をクリックします。



図 5.2.2 仮想マシン一覧にアクセスする-2

- ③ 画面左にある [仮想マシン] をクリックします。

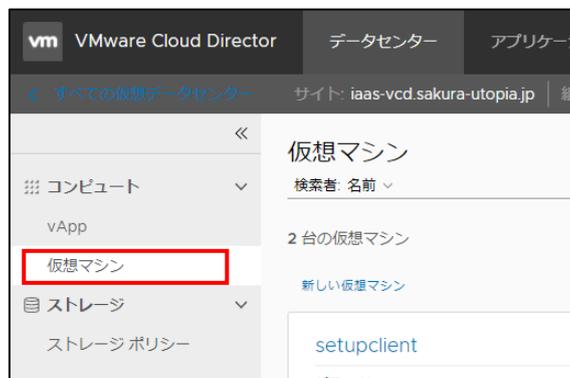


図 5.2.3 仮想マシン一覧にアクセスする-3

5.3. カタログ一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある[ライブラリ]をクリックします。



図 5.3.1 カタログ一覧にアクセスする-1

- ② [カタログ]をクリックします。

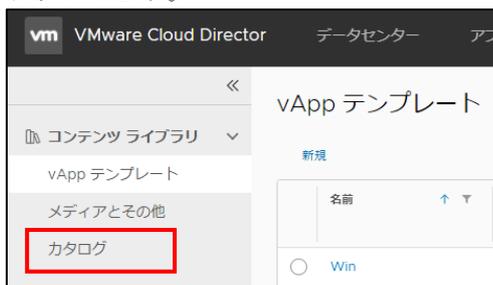


図 5.3.2 カタログ一覧にアクセスする-2

5.4. vApp テンプレート一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある[ライブラリ]をクリックします。



図 5.4.1 vApp テンプレート一覧にアクセスする-1

- ② [vApp テンプレート]をクリックします。

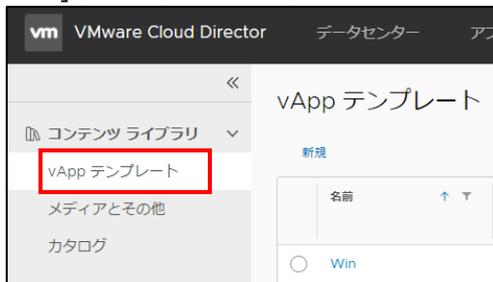


図 5.4.2 vApp テンプレート一覧にアクセスする-2

5.5. メディア一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある[ライブラリ]をクリックします。



図 5.5.1 メディア一覧にアクセスする-1

- ② [メディアとその他]をクリックします。

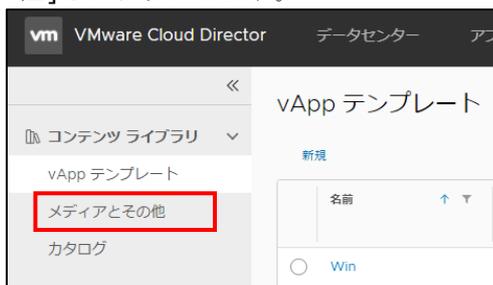


図 5.5.2 メディア一覧にアクセスする-2

6. 仮想マシンを作成する

仮想マシンを作成する手順について説明します。

6.1. テンプレートとは

テンプレートとは、弊社が事前に用意しました Windows 環境の雛形のことです。これを使用することにより、仮想マシンを作成した後に Windows OS をインストールせずにすぐ利用することができるようになります。

6.2. 新規に vApp を構築

- ① 「5.1.vApp 一覧にアクセスする」で vApp 一覧にアクセスし、画面にある [新規 VAPP] をクリックします。

■ vApp が無い場合



図 6.2.1 仮想マシンを作成する -1

■ 既存 vApp がある場合



図 6.2.2 仮想マシンを作成する -2

- ② 名前を入力し、[仮想マシンの追加]をクリックします。
- ここで入力した名前がこの vApp の名前になります。



図 6.2.3 仮想マシンを作成する-3

仮想マシンの追加方法には以下の2つの方法があります。

- ・テンプレートを使用して WindowsOS インストール済の仮想マシンを追加する。
- ・テンプレートを使用せず、仮想マシンを追加後に OS からインストールする。

テンプレートを使用して作成する場合は「パターン1 テンプレートを使用して仮想マシンを追加する」を参照ください。

テンプレートを使用せずに作成する場合は「パターン2 テンプレートを使用せずに仮想マシンを追加する」を参照ください。

また、作成する仮想マシンのライセンスについては「付録1 ライセンスについて」を参照ください。

■パターン1 テンプレートを使用して仮想マシンを追加する

- ③ 名前・コンピュータ名を入力後、タイプで[テンプレートから]をクリックします。

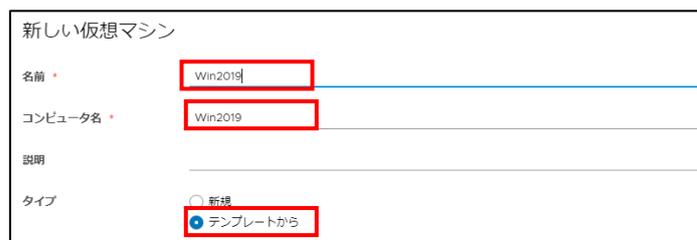


図 6.2.4 仮想マシンを作成する-4

- ④ テンプレートで、使用するテンプレートをチェックします。
テンプレートの詳細については『サービス開始/変更のお知らせ』の公開カタログ情報をご確認ください。

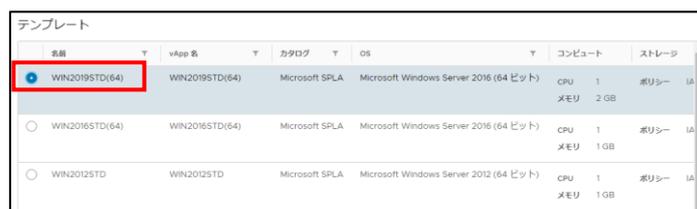


図 6.2.5 仮想マシンを作成する-5

- ⑤ コンピュートで、「カスタムストレージポリシーの使用」をチェックし、この仮想マシンが表示で使用するストレージを指定します。
 カスタムストレージポリシーについては『サービス開始/変更のお知らせ』のストレージ情報をご確認ください。



図 6.2.6 仮想マシンを作成する-6

- ⑥ NIC で、使用するネットワーク設定を指定します。



図 6.2.7 仮想マシンを作成する-7

項目名	入力内容
接続中	チェックします。
ネットワークアダプタタイプ	“VMXNET3”を選択します。
ネットワーク	『サービス開始/変更のお知らせ』のネットワーク情報より、使用するネットワークを選択します。
IP モード	『サービス開始/変更のお知らせ』のネットワーク情報にある「仮想サーバ用プール」から使用する場合は”固定-IP プール”を選択します。 手動で IP アドレスを指定する場合は“固定-手動”を選択します。
IP アドレス	IP モードで“固定-手動”を選択した場合、仮想マシンに割り当てる IP アドレスを入力します。
外部 IP アドレス	変更しません。
MAC アドレス	“リセット”を選択します。

- ⑦ 入力内容に誤りが無いか確認し、[OK]をクリックします。



図 6.2.8 仮想マシンを作成する-8

- ⑧ [作成]をクリックします。

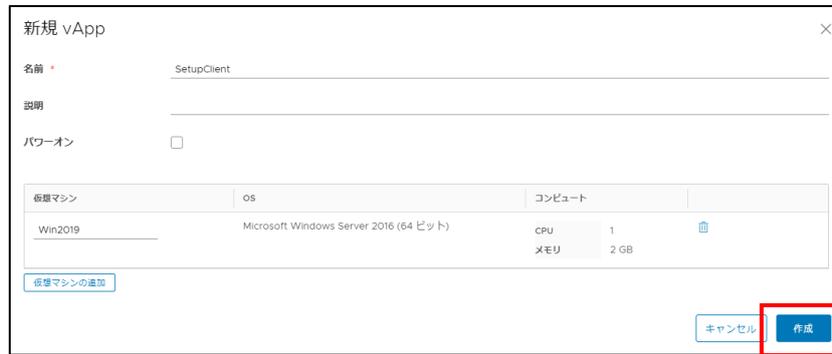


図 6.2.9 仮想マシンを作成する-9

- ⑨ 仮想マシンを作成しています。しばらくお待ちください。
※ 画面が変わらない場合、お手数ですがウィンドウをキャンセルしてください。
(仮想マシンの作成はキャンセルされません。)

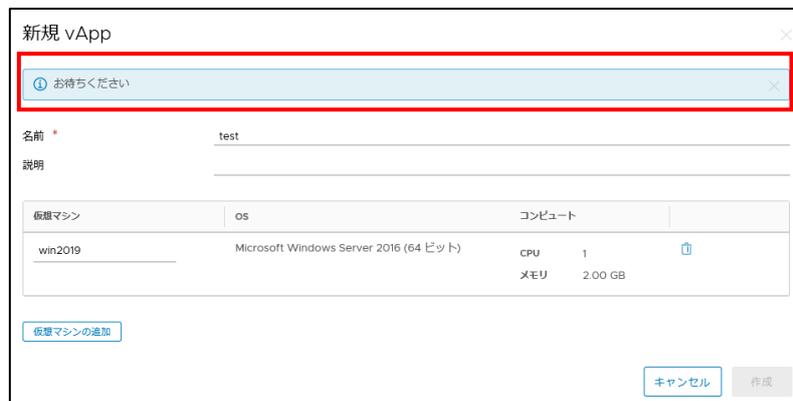


図 6.2.10 仮想マシンを作成する-10

- ⑩ 画面に vApp と仮想マシンが表示されたら初期作成完了です。



図 6.2.11 仮想マシンを作成する-11

- ⑪ 「7. 仮想マシンのリソースを変更する」を実行します。

■パターン2 テンプレートを使用せずに仮想マシンを追加する

- ⑫ 名前・コンピュータ名を入力後、タイプで[新規]をクリックします。

新しい仮想マシン

名前 * test

コンピュータ名 * test

説明

タイプ 新規 テンプレートから

図 6.2.12 仮想マシンを作成する-12

- ⑬ オペレーティングシステムの OS ファミリ・オペレーティングシステムを入力します。

- ※ ブートイメージはここでは使用しません。
- ※ オペレーティングシステムに該当する OS のバージョンが無い場合はそれに近いバージョンを選択します。

オペレーティングシステム

OS ファミリ * Linux

オペレーティングシステム * Red Hat Enterprise Linux 7 (64 ビット)

ブートイメージ 選択..

図 6.2.13 仮想マシンを作成する-13

- ⑭ コンピュートの「サイズの選択」で“事前定義済みのサイズ変更オプション”を選択し、[小]をクリックします。

- ※ リソースは後で変更します。
- ※ CPU・コア・メモリ・ストレージの値は選択したオペレーティングシステムにより変化します。

コンピュータ

サイズの選択 事前定義済みのサイズ変更オプション カスタム サイズ変更オプション

	CPU	コア	メモリ (MB)	ストレージ (GB)
<input checked="" type="radio"/> 小	1	1	512	16
<input type="radio"/> 中	2	1	1024	32
<input type="radio"/> 大	4	1	1024	64

図 6.2.14 仮想マシンを作成する-14

- ⑮ ストレージで、「カスタムストレージポリシーの使用」をチェックし、この仮想マシンが表示で使用するストレージを指定します。
 カスタムストレージポリシーについては『サービス開始/変更のお知らせ』のストレージ情報をご確認ください。
 その後、ストレージポリシーとサイズを指定します。



図 6.2.15 仮想マシンを作成する-15

項目名	入力内容
ストレージポリシー	“使用するカスタムストレージポリシー”で指定したものと 同じにします。
サイズ	使用するサイズを入力します。 1つの仮想マシンで複数ドライブを設定する場合はOS用 ドライブのサイズを入力します。

- ⑯ ネットワークのネットワークアダプタタイプで[VMXNET3]を選択します。

※ その他の項目は後で変更します。



図 6.2.16 仮想マシンを作成する-16

項目名	入力内容
ネットワーク	『サービス開始/変更のお知らせ』のネットワーク情報より、 使用するネットワークを選択します。
ネットワークアダプタタイプ	“VMXNET3”を選択します。
IP モード	『サービス開始/変更のお知らせ』のネットワーク情報に ある「仮想サーバ用プール」から使用する場合は”IP プール” を選択します。 手動で IP アドレスを指定する場合は “手動 IP アドレス” を選択します。
IP アドレス	IP モードで “手動 IP アドレス” を選択した場合、仮想マ シンに割り当てる IP アドレスを入力します。

- ⑰ 全ての項目が入力できたら、[OK]をクリックします。



図 6.2.17 仮想マシンを作成する-17

- ⑱ [作成]をクリックします。



図 6.2.18 仮想マシンを作成する-18

- ⑲ 仮想マシンを作成しています。しばらくお待ちください。
※ 画面が変わらない場合、お手数ですがウィンドウをキャンセルしてください。
(仮想マシンの作成はキャンセルされません。)



図 6.2.19 仮想マシンを作成する-19

- ⑳ 画面に vApp と仮想マシンが表示されたら初期作成完了です。



図 6.2.20 仮想マシンを作成する-20

- 21 「7. 仮想マシンのリソースを変更する」の順に実行します。

7. 仮想マシンのリソースを変更する

作成した仮想マシンのリソース（CPUの数やメモリサイズ等）を変更する手順について説明します。

<重要>

仮想マシン上でコンピュータ名やネットワーク設定等を変更後、VMware Cloud Directorで仮想マシンのコンピュータ名やネットワーク設定を変更した場合、仮想マシン上で設定したコンピュータ名やネットワーク設定等が上書きされます。

仮想マシン上でコンピュータ名やネットワーク設定等を変更する場合、「7.6 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項」を必ずご確認ください。

7.1. 仮想マシンのリソースを変更する

- ① 「5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、設定を変更したい仮想マシンの[詳細]をクリックします。



図 7.1.1 仮想マシンのリソースを変更する-1

- ② ご利用の環境に合わせ、CPU・メモリ・ハードディスク・NIC（ネットワーク）を設定します。
各項目の設定方法につきましては、「7.2. CPU の数を変更する」～「7.5.3. ネットワークを削除する」をご参照ください。

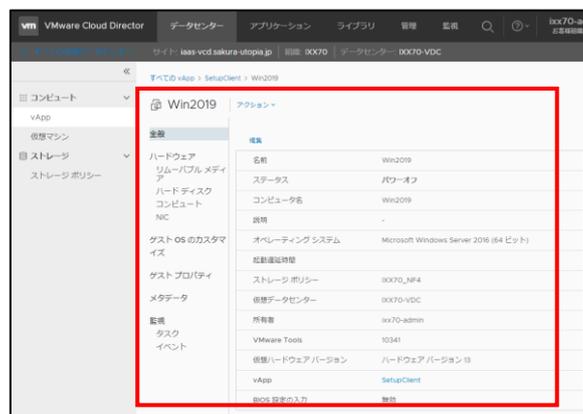


図 7.1.2 仮想マシンのリソースを変更する-2

7.2. CPU の数を変更する

仮想マシンの CPU 数を変更する場合、[ハードウェア] - [コンピュート]を選択し、CPU の上にある”編集”をクリックします。



図 7.2.1 CPU の数を変更する-1

[仮想 CPU の数]、[ソケットあたりのコア数]をクリックし、使用したい数に変更します。

- 仮想 CPU の数とは、仮想マシンで使用する CPU 数（コア数）のことです。
- ソケットあたりのコア数とは、1 つのソケット上に設置する CPU 数（コア数）のことです。
- ソケットの数とは、仮想マシン内で表示される CPU の個数のことです。なお、表示されている値は変更前の状態で、この画面で仮想 CPU の数・ソケットあたりのコア数を変更しても値は変わりません。
- 使用されるリソースは CPU 1 つにつき、最低 1.3GHz・最大 2.6GHz 使用します。
- 仮想マシンに CPU を 1 つ割り当てるごとに最低使用リソース 1.3GHz が消費されます。**契約数以上に CPU を割り当てることも可能ですが、仮想マシンが起動できない場合があります。**
なお、「最低 1.3GHz・最大 2.6GHz の CPU1 つ」と「最低 1.3GHz・最大 1.3GHz の CPU2 つ」のスペックに違いはありません。
- 仮想 CPU ホットアドを有効にすると、仮想マシンがパワーオンの状態でも CPU を増やすことができます。ただし、仮想マシンの OS によっては使用できない場合があります。また、CPU を減らす場合は仮想マシンをパワーオフする必要があります。
- ゲスト OS に対するハードウェア支援 CPU 仮想化の公開はご利用頂けません。



図 7.2.2 CPU の数を変更する-2

7.3. メモリサイズを変更する

仮想マシンのメモリサイズを変更する場合、[ハードウェア] - [コンピュート]を選択し、メモリの上にある”編集”をクリックします。



図 7.3.1 メモリサイズを変更する-1

合計メモリ部分を使用したいサイズに変更します。

- メモリサイズは GB・MB でサイズを指定できます。
- メモリサイズは 4MB の倍数を指定する必要があります。
- 指定されたメモリサイズは契約されたリソース (ストレージ) から使用されます。
- 指定されたメモリサイズが契約されたリソース (ストレージ) を超過する場合、設定することができません。
- メモリホットアドを有効にすると、仮想マシンがパワーオンの状態でもメモリを増やすことができます。ただし、仮想マシンの OS によっては使用できない場合があります。また、メモリを減らす場合は仮想マシンをパワーオフする必要があります。



図 7.3.2 メモリサイズを変更する-2

7.4.1. ハードディスクサイズを変更する

仮想マシンのハードディスクサイズを変更する場合、[ハードウェア] - [ハードディスク]を選択し、“編集”をクリックします。



図 7.4.1.1 ハードディスクサイズを変更する-1

変更したいハードディスクのサイズ部分を使用したいサイズに変更し、“保存”をクリックします。

- **ハードディスクサイズを増やすことはできますが、減らすことはできません。**
- ハードディスクサイズは MB でサイズを指定できます。
- ハードディスクサイズで小数点を使用した場合は MB で計算され、1MB 未満は無視されます。
- **指定されたハードディスクサイズは契約されたリソース（ストレージ）の空き容量から使用されます。**
なお、契約されたリソース（ストレージ）は仮想マシンのメモリ、アップロードしたメディア、「13.1. スナップショットを作成する」で取得したスナップショットでも消費されます。
- 指定されたハードディスクサイズが契約されたリソース（ストレージ）を超過する場合、設定することができません。



図 7.4.1.2 ハードディスクサイズを変更する-2

WindowsOS の仮想マシンの場合、ハードディスクサイズの追加直後はディスクの管理画面に追加情報が表示されていない場合があります。この場合は OS 側で[最新の情報に更新]してください。

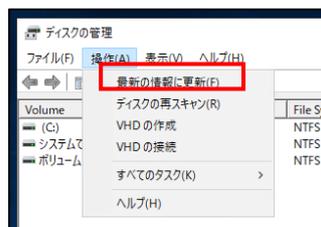


図 7.4.1.3 ハードディスクサイズを変更する-3

WindowsOS の仮想マシンで 1 つのディスクを複数のドライブに分割している場合、一番最後にあるドライブ以外はハードディスクサイズを変更できません。
 複数ドライブを使用する場合は仮想マシンの作成時点で複数ディスクを使用する等をご検討ください。



図 7.4.1.4 ハードディスクサイズを変更する-4

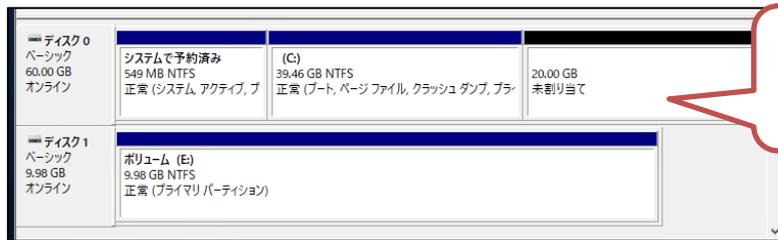


図 7.4.1.5 ハードディスクサイズを変更する-5

7.4.2. ハードディスクを追加する

仮想マシンのハードディスクを追加する場合、[ハードウェア] - [ハードディスク]を選択し、「編集」をクリックします。
 次に表示される画面で「追加」をクリックします。



図 7.4.2.1 ハードディスクを追加する-1



図 7.4.2.2 ハードディスクを追加する-2

ハードディスクのサイズ部分を使用したいサイズに変更し、「保存」をクリックします。

- バスタイプは「LSI Logic SAS (SCSI)」を選択ください。
- バス番号は「0」を選択ください。
- ユニット番号はディスク名と同じ番号を選択ください。
- ポリシーは『サービス開始/変更のお知らせ』に記載のストレージ情報を選択ください。
- ハードディスクサイズはGB・MBでサイズを指定できます。
- ハードディスクサイズで小数点を使用した場合はMBで計算され、1MB未満は無視されます。
- **指定されたハードディスクサイズは契約されたリソース（ストレージ）の空き容量から使用されます。**
なお、契約されたリソース（ストレージ）は仮想マシンのメモリ、アップロードしたメディア、「13.1. スナップショットを作成する」で取得したスナップショットでも消費されます。
- 指定されたハードディスクサイズが契約されたリソース（ストレージ）を超過する場合、設定することができません。



図 7.4.2.3 ハードディスクを追加する-3

7.4.3. ハードディスクを削除する

仮想マシンのハードディスクを削除する場合、[ハードウェア] - [ハードディスク]を選択し、「編集」をクリックします。



図 7.4.3.1 ハードディスクを削除する-1

削除したいハードディスクの右にある[🗑️]をクリックし、「保存」をクリックします。

- OSがインストールされているハードディスクを削除すると仮想マシンが動作しなくなります。



図 7.4.3.2 ハードディスクを削除する-2

7.5.1. ネットワークを変更する

仮想マシンのネットワークを変更する場合、[ハードウェア] - [NIC]を選択し、“編集”をクリックします。



図 7.5.1.1 ネットワークを変更する-1

ネットワークの設定を変更し、“保存”をクリックします。

- 複数 NIC を割り当てる場合、最も優先される NIC の「プライマリ NIC」をチェックしてください。
- 割り当てた NIC を使用する場合、「接続中」をチェックしてください。
- ネットワークは『サービス開始／変更のお知らせ』のネットワーク情報より選択ください。
- IP モードは、『サービス開始／変更のお知らせ』のネットワーク情報にある「仮想サーバ用プール」から使用する場合は”固定 - IP プール”を選択します。手動で IP アドレスを指定する場合は“固定 - 手動”を選択します。
- IP モードで“固定 - 手動”を選択した場合、仮想マシンに割り当てる IP アドレスを入力します。

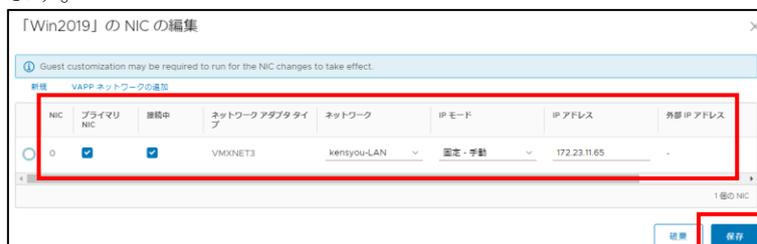


図 7.5.1.2 ネットワークを変更する-2

7.5.2. ネットワークを追加する

仮想マシンのネットワークを追加する場合、[ハードウェア] - [NIC]を選択し、“編集”をクリックします。
次に表示される画面で“追加”をクリックします。



図 7.5.2.1 ネットワークを追加する-1



図 7.5.2.2 ネットワークを追加する-2

追加した NIC については本紙「7.5.1 ネットワークを変更する」と同様にネットワークの設定を変更します。

- 追加した NIC のネットワークアダプタタイプについては必ず「VMXNET3」に指定してください。



図 7.5.2.3 ネットワークを追加する-2

7.5.3. ネットワークを削除する

仮想マシンのネットワークを変更する場合、[ハードウェア] - [NIC]を選択し、“編集”をクリックします。



図 7.5.3.1 ネットワークを削除する-1

仮想マシンのネットワークを削除する場合、削除したい NIC を選択し、[削除]ボタンをクリックします。その後、“保存”をクリックします。

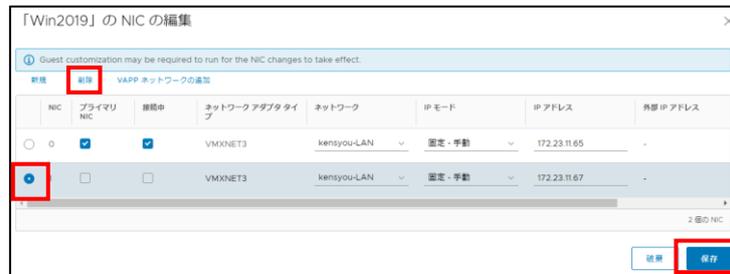


図 7.5.3.2 ネットワークを削除する-2

7.6. 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項

仮想マシン上でコンピュータ名やネットワーク設定等を変更後、VMware Cloud Directorで仮想マシンのリソースを変更した場合、仮想マシン上で設定したコンピュータ名やネットワーク設定等がVMware Cloud Directorの設定内容に上書きされます。仮想マシン上でコンピュータ名やネットワーク設定等を変更した場合、マシンのリソースを変更する前に以下の「ゲスト OS のカスタマイズ」設定を変更してください。

- ① 「5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、設定を変更したい仮想マシンの「詳細」をクリックします。



図 7.6.1 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項-1

- ② 「ゲスト OS のカスタマイズ」を選択し「編集」をクリックします。

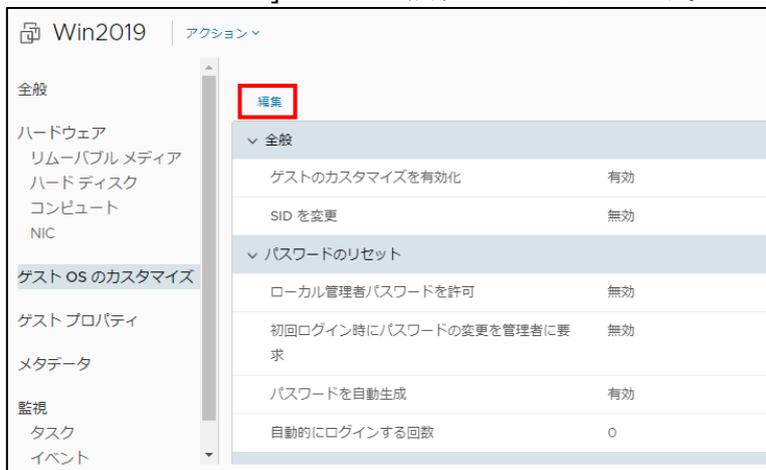


図 7.6.2 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項-2

- ③ [ゲストのカスタマイズの有効化]がチェックされている場合、**チェックを外します。**
- [ゲストのカスタマイズの有効化]が**チェックされている状態**で[OK]ボタンをクリックすると、仮想マシン上で設定したコンピュータ名やネットワーク設定等が **VMware Cloud Director** で登録している情報に上書きされます。
 - [ゲストのカスタマイズの有効化]が**チェックされていない状態**で[OK]ボタンをクリックすると、仮想マシン上で設定したコンピュータ名やネットワーク設定等は変更されませんが、**VMware Cloud Director** 上で表示されている内容と仮想マシンの設定に差異が発生します。
- なお、チェックされていない状態でも CPU・メモリ・ハードディスク・NIC（ネットワーク） の追加・変更・削除は可能です。
- 仮想マシンの設定を **VMware Cloud Director** に反映することはできません。



図 7.6.3 仮想マシンのリソースを変更する際の注意事項-3

8. 仮想マシンを操作する

作成した仮想マシンを起動し、操作する手順について説明します。

8.1. 仮想マシンを起動する

- ① 「5.2.仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、設定を変更したい仮想マシンの[アクション]をクリックします。



図 8.1.1 仮想マシンを起動する-1

- ② [パワーオン]をクリックします。

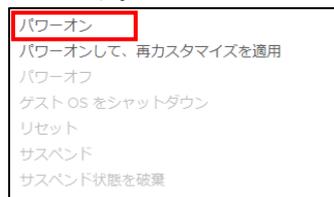


図 8.1.2 仮想マシンを起動する-2

- ③ ステータスが“パワーオン”になりましたら、仮想マシンの起動は完了です。



図 8.1.3 仮想マシンを起動する-3

8.2. 仮想マシンを操作する

<重要>

ブラウザが Microsoft Internet Explorer 11 の場合、本機能はご利用頂けません。ご利用の際には別のブラウザをご利用ください。

- ① 操作したい仮想マシンの[仮想マシン コンソール]をクリックします。又は[アクション]をクリックし、[Web コンソールの起動]を選択します。



図 8.2.1 仮想マシンを操作する-1



図 8.2.2 仮想マシンを操作する-2

- ② 以下のコンソール画面が表示されます。

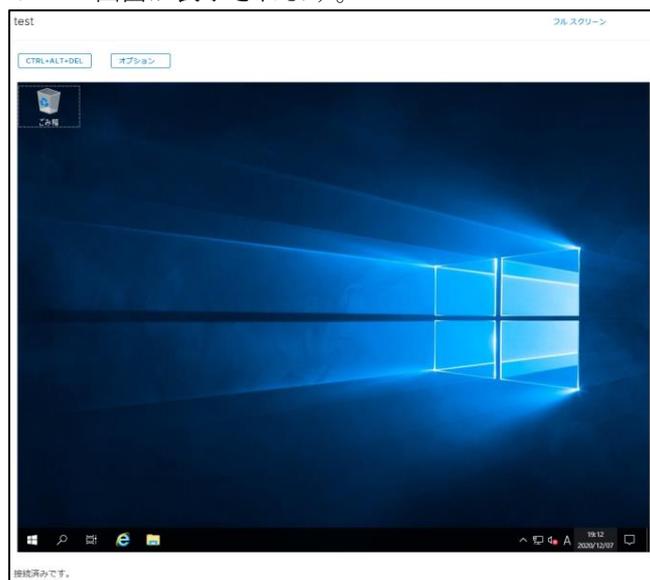


図 8.2.3 仮想マシンを操作する-3

- コンソール画面のボタンについて

ボタン	名前	説明
CTRL+ALT+DEL	Ctrl-Alt-Del の送信	仮想マシンでキーボードの Ctrl+Alt+Delete を押した状態にします。
フルスクリーン	フルスクリーン	コンソール画面をフルスクリーンで表示します。
オプション	キーボードの言語	使用するキーボードの種類を選択します。

③ 仮想マシンを操作する場合、画面内をクリックします。

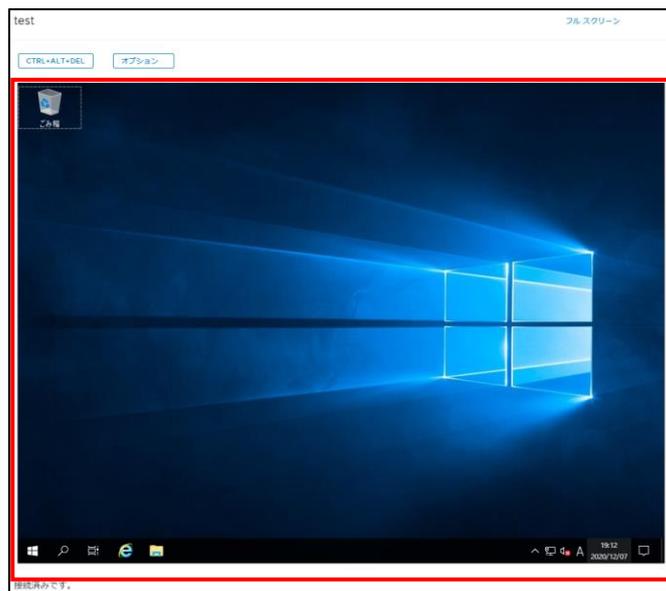


図 8.2.4 仮想マシンを操作する-4

仮想マシンを操作時に以下の状態になる場合があります。

- マウスのカーソルが表示されなくなった。
- マウスのカーソルが仮想マシンの画面から外に移動しなくなった。

この場合、キーボードの **Ctrl** キーを押しながら **Alt** キーを押すと元の状態に戻ります。
再び仮想マシンを送信する場合は仮想マシンの画面をクリックしてください。

9. 公開カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項

カタログを使用して仮想マシンを作成した場合、初回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。ここでは、作成した仮想マシンの初回ログイン時の流れについて説明します。

- 本項目はカタログを使用して作成した Windows Server 2019 の画面です。

9.1. 初回ログイン時の流れ

- ① 画面右上の[**CTRL+ALT+DEL**]をクリックし、仮想マシンに Ctrl + Alt + Del を送信します。

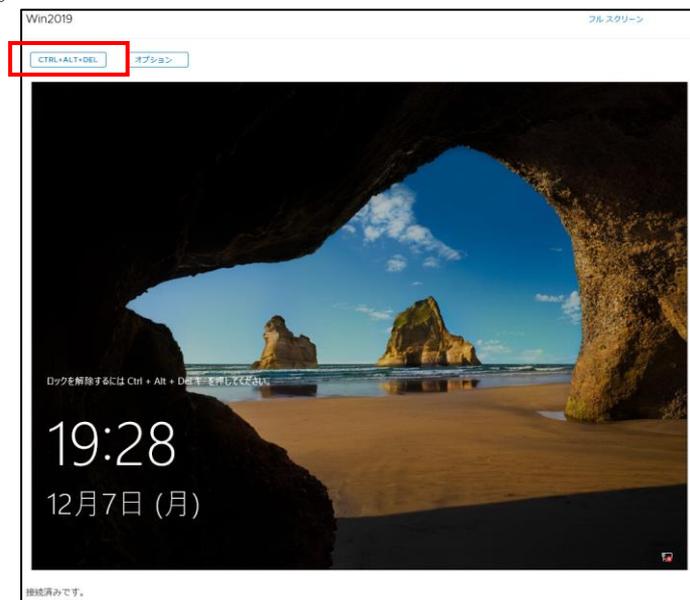


図 9.1.1 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-1

- ② パスワードを入力し、[→]をクリックします。
 - 初期パスワードについては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 公開カタログ情報』をご確認ください。

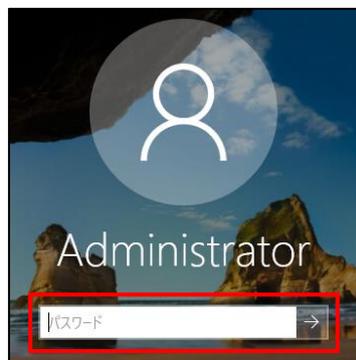


図 9.1.2 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-2

- ③ 以下の画面が表示されます。[OK]をクリックします。



図 9.1.3 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-3

- ④ 新しいパスワードを二回入力し、[→]をクリックします。

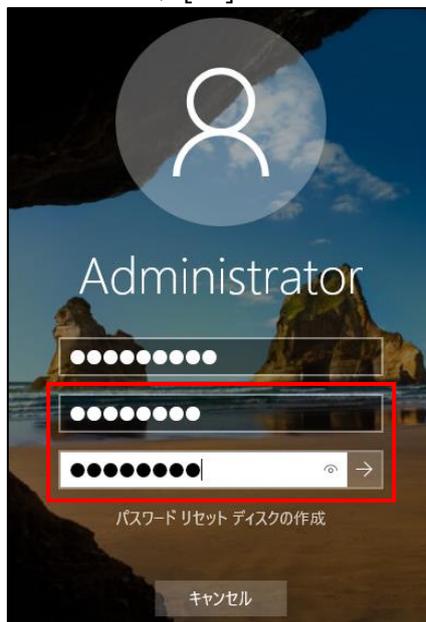


図 9.1.4 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-4

- ⑤ [OK]をクリックします。



図 9.1.5 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-5

- ⑥ 仮想マシンの画面が表示されます。

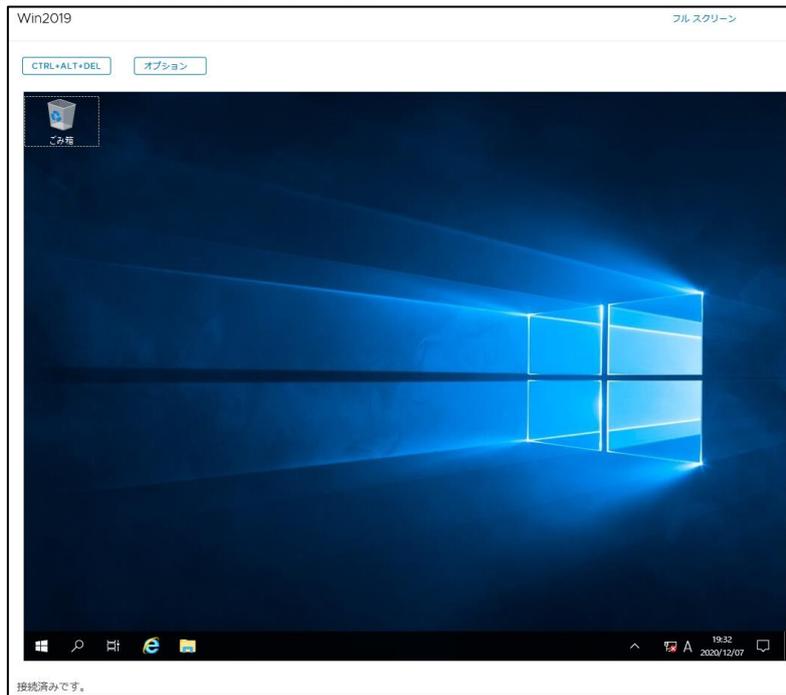


図 9.1.6 カタログを使用して仮想マシンを作成した場合の注意事項-6

次回ログインする際には先程入力した新しいパスワードでログインしてください。
また、パスワードにつきましては定期的に変更することをお勧めします。
仮想マシンのパスワード変更方法につきましては、OS のマニュアルをご確認ください。

10. OS をインストールする

カタログを使用せずに仮想マシンを作成した場合、OS をインストールする必要があります。ここでは、作成した仮想マシンに OS をインストールする手順について説明します。

<重要>

お手持ちの CD・DVD や ISO ファイルを使用する場合、事前にデータをサーバにアップロードする必要があります。

アップロード方法につきましては「14.1. カタログを作成する」「14.5. 手元にあるメディアをアップロードする」をご確認ください。

- ① 「5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、操作する仮想マシンの[詳細]をクリックします。



図 10.1 OS の手動インストール-1

- ② [全般]を選択し、「編集」をクリックします。



図 10.2 OS の手動インストール-2

- ③ [BIOS 設定の入力]を選択し、「保存」をクリックします。



図 10.3 OS の手動インストール-3

※ BIOS 設定の入力にチェックを入れると、次回のみパワーオン時に BIOS 画面が起動されます

- ④ 仮想マシンの[アクション]をクリックします。



図 10.4 OS の手動インストール-4

- ⑤ [メディアを挿入]をクリックします。



図 10.5 OS の手動インストール-5

- ⑥ 使用するメディアを選択し、[挿入]をクリックします。



図 10.6 OS の手動インストール-6

- ⑦ 仮想マシンの[アクション]をクリックします。



図 10.7 OS の手動インストール-7

- ⑧ [パワーオン]をクリックします。



図 10.8 OS の手動インストール-8

- ⑨ ステータスが“パワーオン”になりましたら、Web コンソールを起動します。



図 10.9 OS の手動インストール-9

- ⑩ BIOS 画面が表示されます。
画面をクリックした後、[→]キーで **Boot** を選択します。

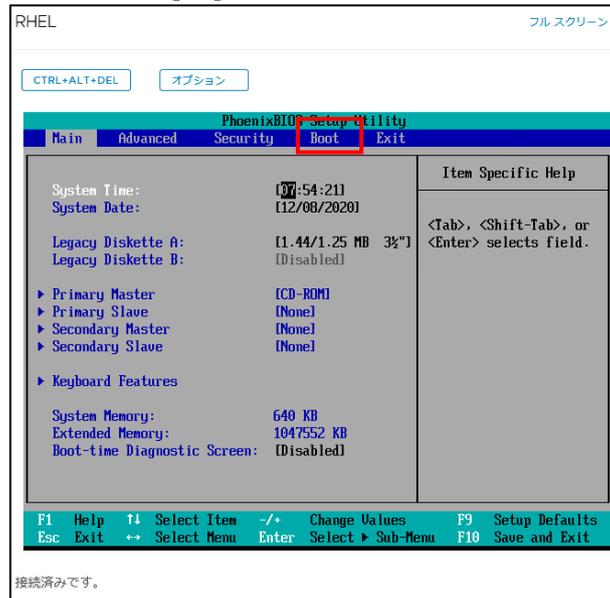


図 10.10 OS の手動インストール-10

- ⑪ [↑]キー・[↓]キー・[+]キー・[-]キーで「CD-ROM Drive」を一番上に移動した後、[→]キーで **Exit** を選択します。

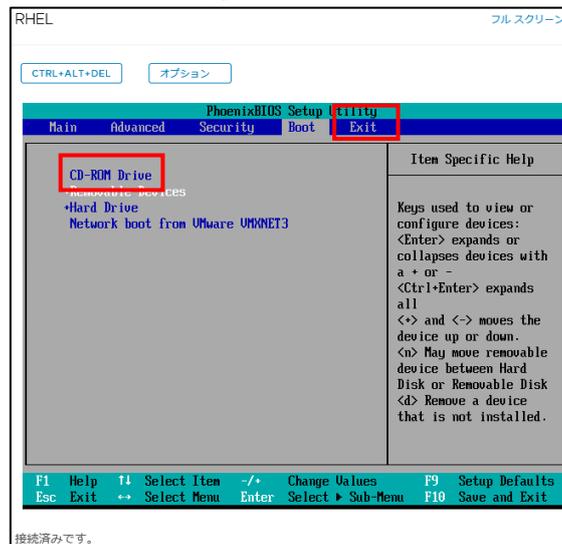


図 10.11 OS の手動インストール-11

- ⑫ [Exit Saving Changes]を選択します。

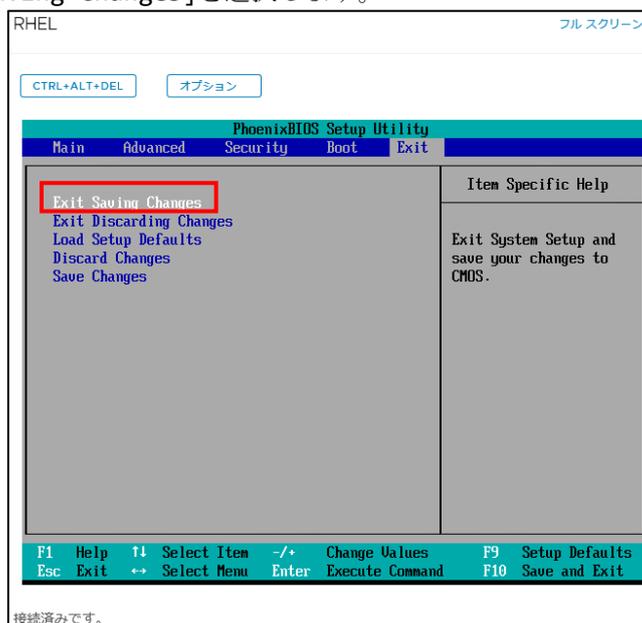


図 10.12 OS の手動インストール-12

- ⑬ セットした OS のインストール画面が表示されます。

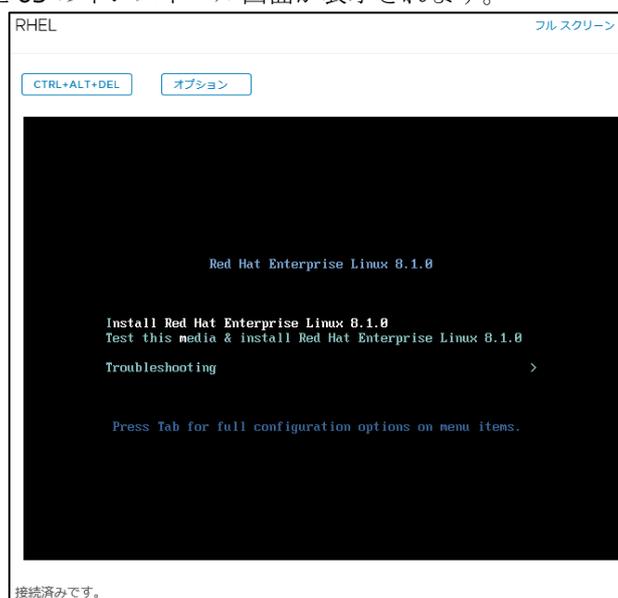


図 10.13 OS の手動インストール-13

インストール方法につきましては、OS のマニュアルをご確認ください。

OS インストール中は操作時に以下の状態になります。

- マウスのカーソルが表示されなくなる。
- マウスのカーソルが仮想マシンの画面から外に移動しなくなる。

この場合、キーボードの **Ctrl** キーを押しながら **Alt** キーを押すと元の状態に戻ります。再び仮想マシンを送信する場合は仮想マシンの画面をクリックしてください。

- ⑭ 作業が終わったら[メディアの取り出し]をクリックし、使用したディスクを取り出します。また、必要に応じて BIOS 設定を変更してください。



図 10.13 OS の手動インストール-13

11.1. VMware Tools をインストールする

作成した仮想マシンに VMware Tools をインストールする手順について説明します。

- カタログを使用して仮想マシンを作成した場合、既に VMware Tools はインストールされています。

11.1.1. VMware Tools とは

VMware Tools は多くの補助的な設定を実施する VMware 社が提供するプログラムです。仮想マシンをネットワークに接続するために必要なプログラムとなりますので、必ず本プログラムをインストールしてください。

11.2. VMware Tools のインストール準備を行う

- ① VMwareTools をインストールしたい仮想マシンがパワーオンになっていることを確認し、[アクション]をクリックします。



図 11.2.1 VMwareTools のインストール準備を行う -1

- ② 既にメディアが挿入している場合、仮想マシンが操作できなくなる場合があります。そのため、一度[メディアの挿入]で適当なメディアを挿入した後、[メディアの取り出し]を行います。



図 11.2.2 VMwareTools のインストール準備を行う-2

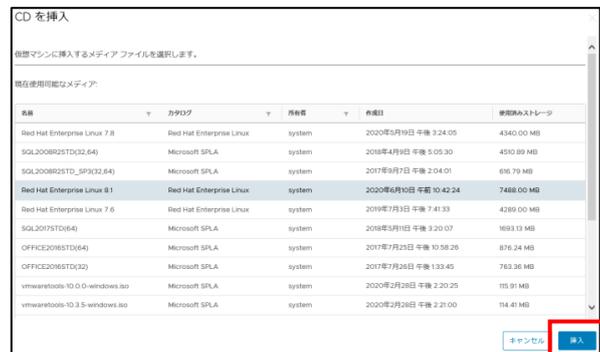


図 11.2.3 VMwareTools のインストール準備を行う-3



図 11.2.4 VMwareTools のインストール準備を行う-4

- ③ [VMware Tools のインストール]をクリックします。



図 11.2.5 VMwareTools のインストール準備を行う-5

11.3. Windows 環境で VMware Tools のインストールする

- ① VMware Tools をインストールする仮想マシンのコンソール画面を表示すると以下の画面が表示されています。プログラムのインストール/実行にありますが実行ファイルをクリックします。



図 11.3.1 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-1

- ② [次へ]ボタンをクリックします。

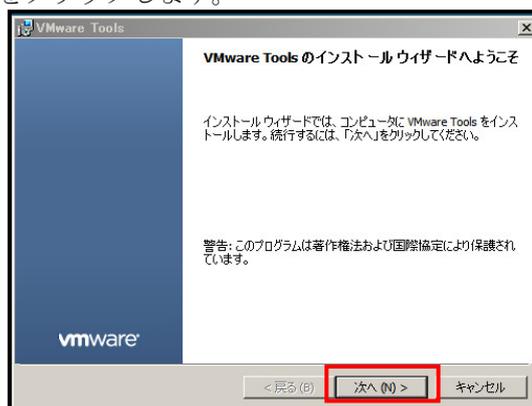


図 11.3.2 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-2

- ③ [標準]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

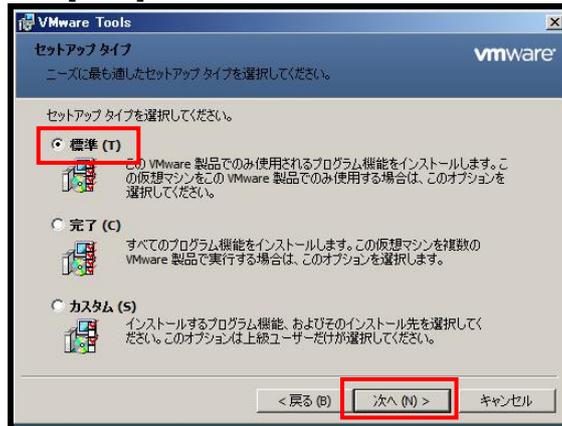


図 11.3.3 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-3

- ④ [インストール]ボタンをクリックします。

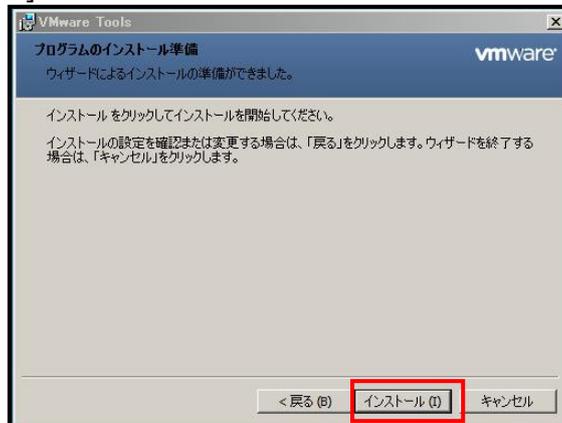


図 11.3.4 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-4

- ⑤ 以下のインストール中画面が表示されます。しばらくお待ちください。

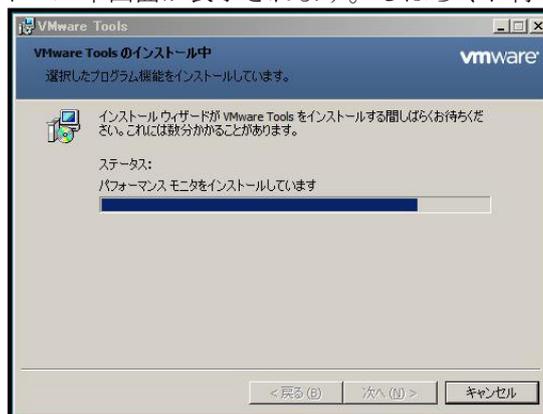


図 11.3.5 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-5

- ⑥ 正常にインストールされた場合、以下の画面が表示されます。[終了]ボタンをクリックします。

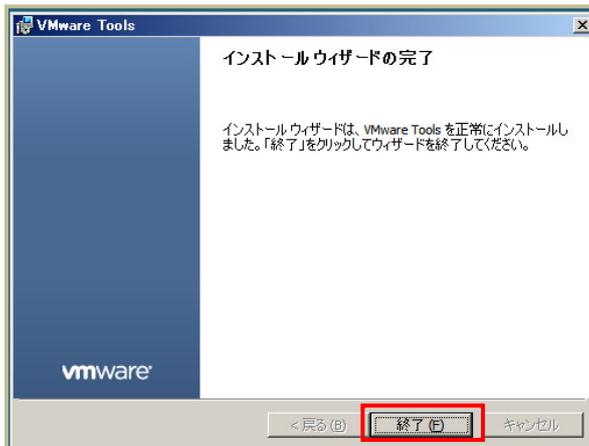


図 11.3.6 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-6

- ⑦ [はい]ボタンをクリックします。クリックすると仮想マシンが再起動されます。

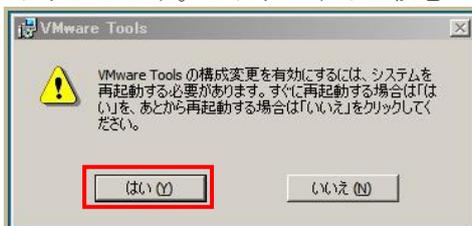


図 11.3.7 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-7

- ⑧ インストールが完了しましたら、[メディアの取り出し]を行います。



図 11.3.8 Windows 環境で VMware Tools をインストールする-8

11.4. Linux 環境で VMware Tools をインストールする

- ① VMware Tools をインストールする仮想マシンのコンソール画面を表示し、root 権限を持つユーザーで以下のコマンドを順に実行します。

```
mkdir /mnt/cdrom
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
cd /tmp
tar xzvf /mnt/cdrom/VMwareTools-*.tar.gz
cd vmware-tools-distrib
./vmware-install.pl
```

図 11.4.1 Linux 環境で VMware Tools をインストールする-1

- ② vmware-install.pl 実行後、いくつか入力を求められますが全て未記入で Enter キーを押してください。
インストールが完了すると以下の画面が表示されます。

```
Creating a new initrd boot image for the kernel.
vmware-tools start/running
The configuration of VMware Tools 9.0.5 build-1065307 for Linux for this
running kernel completed successfully.

You must restart your X session before any mouse or graphics changes take
effect.

You can now run VMware Tools by invoking "/usr/bin/vmware-toolbox-cmd" from the
command line.

To enable advanced X features (e.g., guest resolution fit, drag and drop, and
file and text copy/paste), you will need to do one (or more) of the following:
1. Manually start /usr/bin/vmware-user
2. Log out and log back into your desktop session; and,
3. Restart your X session.

Enjoy,

--the VMware team

Found VMware Tools CDRom mounted at /mnt/cdrom. Ejecting device /dev/sr0 ...
/sbin/restorecon: Warning no default label for /tmp/vmware-block-restore0/tmp_f
ile
[root@localhost vmware-tools-distrib]# _
```

図 11.4.2 Linux 環境で VMware Tools をインストールする-2

- ③ 仮想マシンを再起動するため、以下のコマンドを実行します。

```
reboot
```

図 11.4.3 Linux 環境で VMware Tools をインストールする-3

- ④ インストールが完了しましたら、[メディアの取り出し]を行います。



図 11.4.4 Linux 環境で VMware Tools をインストールする-4

12. 仮想マシンのバックアップ・リストア

VMware Cloud Director では、作成した仮想マシンをお客様がバックアップ・リストアすることができます。

ここでは、バックアップ・リストアの種類とその手順について説明いたします。

12.1. バックアップに必要なディスク容量

作成した仮想マシンをバックアップする場合、最大でバックアップする仮想マシンのハードディスクサイズ・メモリサイズの合計と同じサイズの空き領域が必要です。

空き容量が不足している場合はバックアップが作成できませんので予めご了承ください。

12.2. バックアップの種類

作成した仮想マシンをお客様がバックアップ・リストアする方法は二種類あります。

それぞれ方法に応じて処理の内容や手順が異なります。

方法	概要
スナップショットを使用する	<p>現在の仮想マシンの状態をバックアップします。 (詳細は、「13.スナップショットを使用する」をご参照ください。)</p> <p>■メリット</p> <ul style="list-style-type: none">仮想マシンが起動中でも取得できます。 <p>■デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">1つの仮想マシンに対し1つしか取得できません。リストア時は現在の仮想マシンに上書きします。 <p>■主な用途</p> <ul style="list-style-type: none">セキュリティパッチの適用等、作業実施前の仮想マシン情報を一時保存する。
カタログを使用する	<p>カタログに vApp テンプレートとしてバックアップします。 (詳細は、「14.カタログを使用する」をご参照ください。)</p> <p>■メリット</p> <ul style="list-style-type: none">リストア時は現在の仮想マシンとは別に作成されます。カタログを使用して同じ仮想マシンを作成することができます。空き容量があれば複数のバックアップが可能です。 <p>■デメリット</p> <ul style="list-style-type: none">vApp にある全仮想マシンが停止中でなければ取得できません。リストア時は現在の仮想マシンに上書きできません。カタログを作成するごとに vApp にある全仮想マシンのハードディスクサイズと同じサイズの空き領域が必要です。 <p>■主な用途</p> <ul style="list-style-type: none">ある時点での仮想マシンの設定を保存する。仮想マシンを複製する。

13. スナップショットを使用する

VMware Cloud Director では、仮想マシンの現在の状態をスナップショットとして保存することができます。

ここでは、スナップショットの使用方法について説明いたします。

また、本項目のスナップショットは弊社スナップショットサービス・バックアップサービスとは異なる機能となりますのでご注意ください。

13.1. スナップショットを作成する

- ① スナップショットを作成する場合、仮想マシンと同じサイズの空き容量が必要になります。また、既にスナップショットを作成している場合、古いスナップショットは上書きされます。予めご了承ください。
なお、スナップショットは仮想マシンがパワーオン状態でも取得できますが、パワーオフ状態での取得をお勧めします。
- ② 「5.2.仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、スナップショットを取得したい仮想マシンで既にスナップショットを取得しているか確認します。

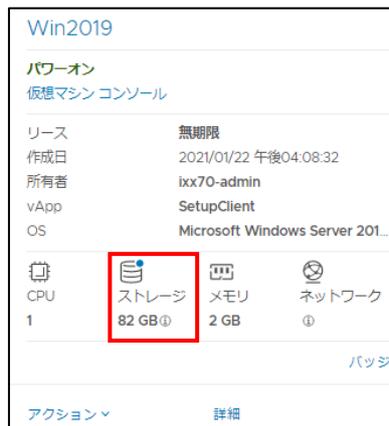


図 13.1.1 スナップショットを作成する-1

 ストレージ 42 GB	スナップショットはありません。								
 ストレージ 82 GB ⓘ	既にスナップショットがあります。								
 ストレージの詳細 スナップショット 作成日 2021/01/25 午後06:41:56 使用率 42 GB ディスク	<p>[ⓘ] をクリックするとスナップショットの取得日時、ストレージ使用量が表示されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スナップショット作成日</td> <td>スナップショットの取得日時</td> </tr> <tr> <td>スナップショット使用率</td> <td>スナップショットのストレージ使用量</td> </tr> <tr> <td>ディスクサイズ</td> <td>仮想マシンのストレージ使用量</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	スナップショット作成日	スナップショットの取得日時	スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量	ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量
項目	内容								
スナップショット作成日	スナップショットの取得日時								
スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量								
ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量								

- ③ スナップショットを取得したい仮想マシンで [アクション] をクリックします。



図 13.1.2 スナップショットを作成する-2

- ④ [スナップショットの作成] をクリックします。



図 13.1.3 スナップショットを作成する-3

- ④ チェックボックスを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

チェック項目	説明
仮想マシンのメモリをスナップショットする。	パワーオン状態の仮想マシンのメモリの状態を取得します。
ゲストファイルシステムを休止する。	パワーオン状態の仮想マシンを一時的に停止してスナップショットを作成します。

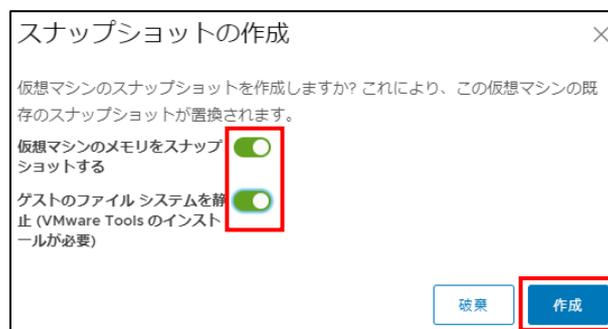


図 13.1.4 スナップショットを作成する-4

- ⑤ ステータスが元の状態になりましたら、完了となります。

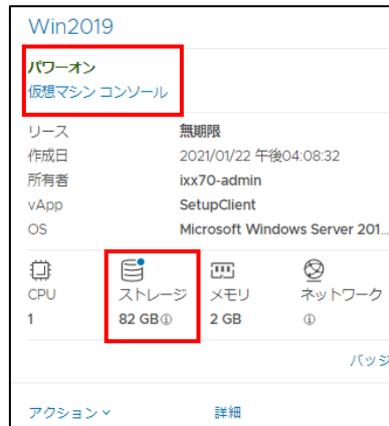


図 13.1.5 スナップショットを作成する-5

13.2. 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す

- ① スナップショットを戻すと対象の仮想マシンの情報は全て上書きされます。予めご了承ください。
- ② 「5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、スナップショットを戻したい仮想マシンで既にスナップショットを取得しているか確認します。



図 13.2.1 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す-1

 ストレージ 42 GB	スナップショットはありません。								
 ストレージ 82 GB ①	既にスナップショットがあります。								
	<p>[①]をクリックするとスナップショットの取得日時、ストレージ使用量が表示されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スナップショット作成日</td> <td>スナップショットの取得日時</td> </tr> <tr> <td>スナップショット使用率</td> <td>スナップショットのストレージ使用量</td> </tr> <tr> <td>ディスクサイズ</td> <td>仮想マシンのストレージ使用量</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	スナップショット作成日	スナップショットの取得日時	スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量	ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量
項目	内容								
スナップショット作成日	スナップショットの取得日時								
スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量								
ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量								

- ③ スナップショットを戻したい仮想マシンで [アクション]をクリックします。

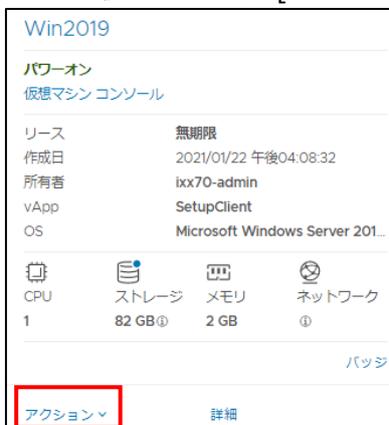


図 13.2.2 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す-2

- ⑤ [スナップショットに戻す]をクリックします。



図 13.2.3 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す-3

- ⑥ [OK]ボタンをクリックします。

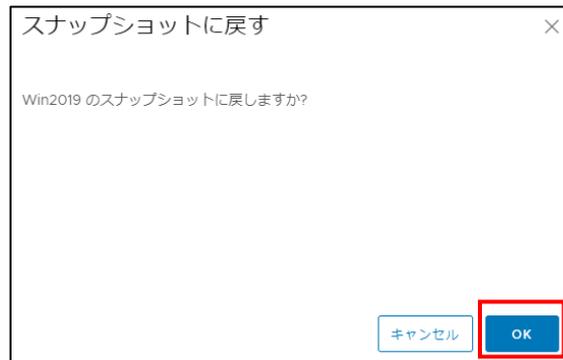


図 13.2.4 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す-4

- ⑦ ステータスが元の状態になりましたら、完了となります。

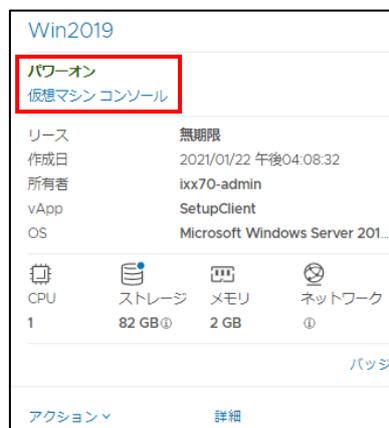


図 13.2.5 仮想マシンをスナップショットの状態に戻す-5

13.3. スナップショットを削除する

- ① 「5.2.仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、スナップショットを削除したい仮想マシンで既にスナップショットを取得しているか確認します。



図 13.3.1 スナップショットを削除する-1

 ストレージ 42 GB	スナップショットはありません。								
 ストレージ 82 GB ⓘ	既にスナップショットがあります。								
	[ⓘ] をクリックするとスナップショットの取得日時、ストレージ使用量が表示されます。								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スナップショット作成日</td> <td>スナップショットの取得日時</td> </tr> <tr> <td>スナップショット使用率</td> <td>スナップショットのストレージ使用量</td> </tr> <tr> <td>ディスクサイズ</td> <td>仮想マシンのストレージ使用量</td> </tr> </tbody> </table>		項目	内容	スナップショット作成日	スナップショットの取得日時	スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量	ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量
項目	内容								
スナップショット作成日	スナップショットの取得日時								
スナップショット使用率	スナップショットのストレージ使用量								
ディスクサイズ	仮想マシンのストレージ使用量								

- ② スナップショットを戻したい仮想マシンで [アクション] をクリックします。



図 13.3.2 スナップショットを削除する-2

- ③ [スナップショットの削除]をクリックします。



図 13.3.3 スナップショットを削除する-3

- ④ [OK]ボタンをクリックします。

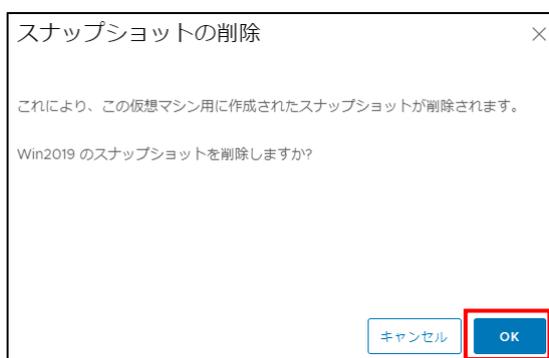


図 13.3.4 スナップショットを削除する-4

- ⑤ ステータスが元の状態になりましたら、完了となります。



図 13.3.5 スナップショットを削除する-5

14. カタログを使用する

VMware Cloud Director にはカタログという機能があります。

カタログでは以下の操作をすることができます。

- ・ 作成した vApp をカタログに保存し、保存したカタログを使用して新しい vApp ・ 仮想マシンを作成する。
- ・ 手元にあるメディアをアップロードし、仮想マシンで使用する。

但し、カタログを使用するためには空き容量が必要になります。予めご了承ください。ここでは、カタログの使用方法について説明いたします。

14.1. カタログを作成する

- ① 「5.3. カタログ一覧にアクセスする」でカタログ一覧にアクセスし、[新規]をクリックします。



図 14.1.1 カタログを作成する-1

- ② 名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
 - ここで入力した名前がこのカタログの名前になります。



図 14.1.2 カタログを作成する-2

- ③ 以下の画面になりましたら、完了となります。

名前	バージョン	ステータス	共有済み	外部	所有者	作成日	vApp テンプレート	メディアとその他
Microsoft SP...	115	準備完了	否	-	system	2017年7月25...	5	25
Red Hat Ent...	19	準備完了	否	-	system	2019年7月3...	0	6
VMware To...	2	準備完了	否	-	system	2020年2月2...	0	0
VMware To...	4	準備完了	否	-	system	2020年2月19...	0	1
カタログ	1	準備完了	-	-	ixx70-admin	2020年12月1...	0	0

図 14.1.3 カタログを作成する-3

14.2. vApp テンプレートを作成する

vApp テンプレートを作成するためには、対象 vApp で動作する全ての仮想マシンを停止することを推奨します。また、対象 vApp にある全ての仮想マシンの合計容量が空き容量として必要になります。予めご了承ください。

- ① 「5.1.vApp 一覧にアクセスする」で vApp 一覧にアクセスし、vApp テンプレートを作成する vApp の[アクション]をクリックします。



図 14.2.1 vApp テンプレートを作成する-1

- ② [カタログに追加]をクリックします。

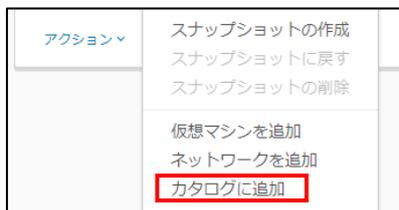


図 14.2.2 vApp テンプレートを作成する-2

- ③ 必要情報を入力し、[OK]をクリックします。

図 14.2.3 vApp テンプレートを作成する-3

カタログ	先程作成したカタログを選択します。
名前	作成するテンプレートの名前を入力します。
説明	変更する必要はありません。
ストレージリス	変更する必要はありません。
このテンプレートを使用する場合、以下を指定します。	変更する必要はありません。

- ④ 「5.4. vApp テンプレート一覧にアクセスする」で作成したテンプレートが表示されていることを確認します。



図 14.2.4 vApp テンプレートを作成する-4

14.3. vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する

本項目では現在使用している vApp に仮想マシンを作成する手順について説明します。
新たに vApp を追加する場合は「6. 仮想マシンを作成する」を参照ください。

- ① 「5.1.vApp 一覧にアクセスする」で vApp 一覧にアクセスし、vApp テンプレートを作成する vApp の[ACTIONS]をクリックします。



図 14.3.1 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-1

- ② [仮想マシンを追加]をクリックします。



図 14.3.2 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-2

- ③ [仮想マシンの追加]をクリックします。



図 14.3.3 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-3

- ④ 「6.2. 新規に vApp を構築」の「パターン1」テンプレートを使用して仮想マシンを追加する」を参考に仮想マシンを作成します。
 この際、テンプレートとして「14.2. vApp テンプレートを作成する」で作成したテンプレートを選択します。

※ カスタムストレージポリシーの使用はここでは使用しません。

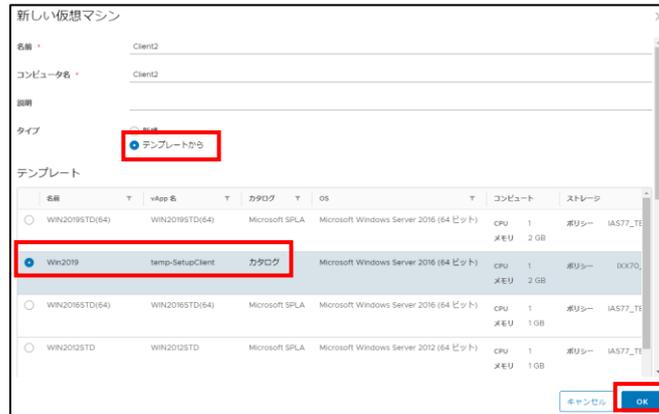


図 14.3.4 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-4

- ⑤ [追加]をクリックします。



図 14.3.5 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-5

- ⑥ 「5.2. 仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、作成した仮想マシンが表示されたら初期作成完了です。



図 14.3.6 vApp テンプレートを使用して仮想マシンを作成する-6

- ⑦ 「7. 仮想マシンのリソースを変更する」を実行します。

14.4. 作成した vApp テンプレートを削除する

- ① 「5.4.vApp テンプレート一覧にアクセスする」で vApp テンプレート一覧にアクセスし、削除したいテンプレートをチェックし、[削除]をクリックします。



図 14.4.1 作成した vApp テンプレートを削除する-1

- ② [削除]をクリックします。



図 14.4.2 作成した vApp テンプレートを削除する-2

- ③ 削除されたことを確認します。



図 14.4.3 作成した vApp テンプレートを削除する-3

14.5. 手元にあるメディアをアップロードする

お手元にあるメディア（ISO ファイル）を仮想マシンの CD-ROM に挿入するにはメディアをカタログにアップロードする必要があります。また、使用するメディアの容量が空き容量として必要になります。予めご了承ください。

- ① 「5.5.メディア一覧にアクセスする」でメディア一覧にアクセスし、[追加]をクリックします。

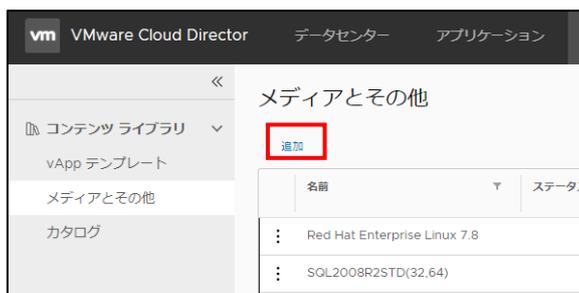


図 14.5.1 手元にあるメディアをアップロードする-1

- ② 作成したカタログを選択し、[↑]ボタンをクリックし、アップロードするファイルを選択します。



図 14.5.2 手元にあるメディアをアップロードする-2

- ③ 必要であれば名前を変更し、[OK]ボタンをクリックします。
 - ここで入力した名前がこのメディアの名前になります。



図 14.5.3 手元にあるメディアをアップロードする-3

- ④ 以下の画面になりましたら、完了となります。



図 14.5.4 手元にあるメディアをアップロードする-4

14.6.メディアを仮想マシンに挿入する

- ① 「5.2.仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、メディアを挿入したい仮想マシンの[アクション]をクリックします。



図 14.6.1 メディアを仮想マシンに挿入する-1

- ② [メディアの挿入]をクリックします。



図 14.6.2 メディアを仮想マシンに挿入する-2

- ③ メディアを選択し、[挿入]をクリックします。



図 14.6.3 メディアを仮想マシンに挿入する-3

- ④ 仮想マシン上でメディアが利用できることを確認します。

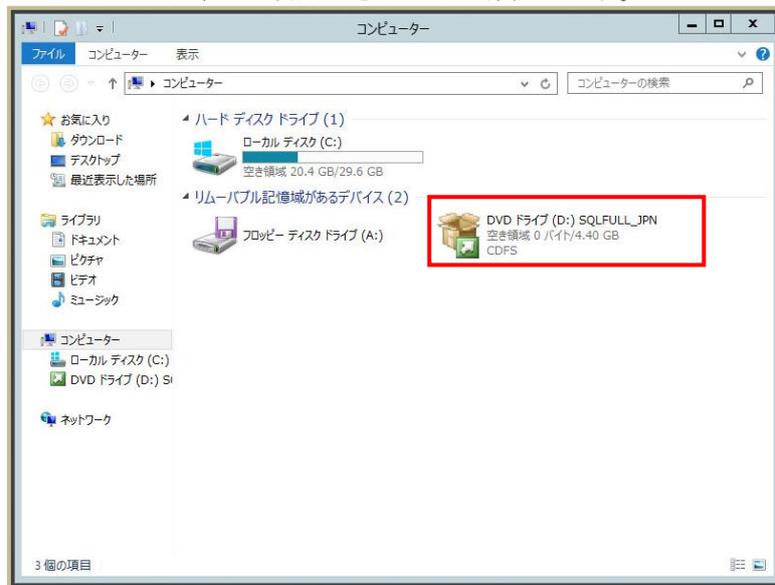


図 14.6.4 メディアを仮想マシンに挿入する-4

14.7.メディアを仮想マシンから取り出す

- ① 「5.2.仮想マシン一覧にアクセスする」で仮想マシン一覧にアクセスし、メディアを取り出したい仮想マシンの[アクション]をクリックします。



図 14.7.1 メディアを仮想マシンから取り出す-1

- ② [メディアの取り出し]をクリックします。



図 14.7.2 メディアを仮想マシンから取り出す-2

14.8. アップロードしたメディアを削除する

- ① 「5.5.メディア一覧にアクセスする」でメディア一覧にアクセスし、削除したいメディアの[⋮]をクリックし、[削除]をクリックします。



図 14.8.1 アップロードしたメディアを削除する-1

- ② [削除]をクリックします。



図 14.8.2 アップロードしたメディアを削除する-2

- ③ 削除されたことを確認します。

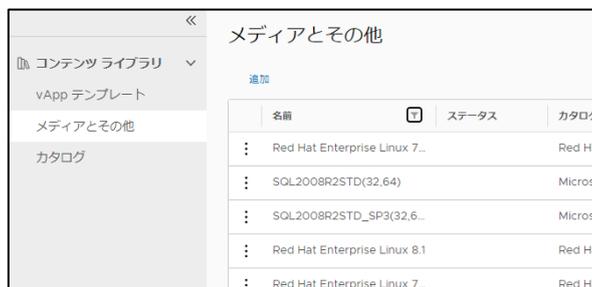


図 14.8.3 アップロードしたメディアを削除する-3

14.9. カタログを削除する

- ① 「5.3. カタログ一覧にアクセスする」でカタログ一覧にアクセスし、削除したいカタログの[⋮]をクリックし、[削除]をクリックします。

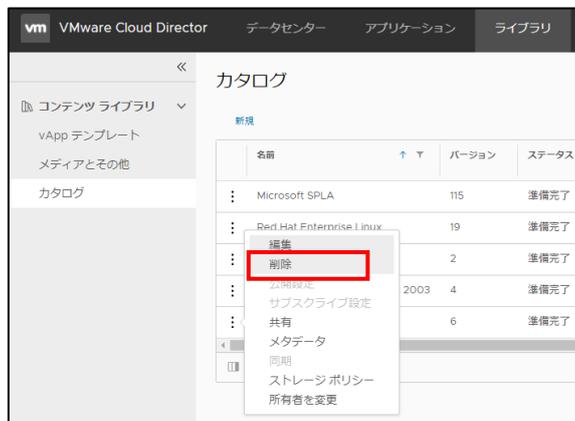


図 14.9.1 カタログを削除する-1

- ② [削除]をクリックします。
※メディア・テンプレートがある場合、同時に削除されます。

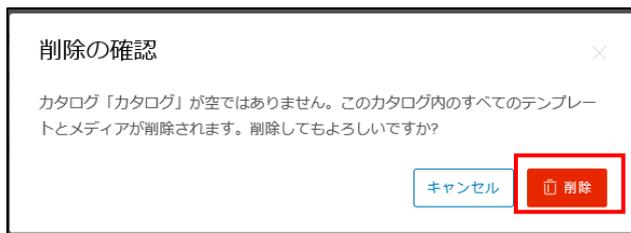


図 14.9.2 カタログを削除する-2

- ③ 削除されたことを確認します。

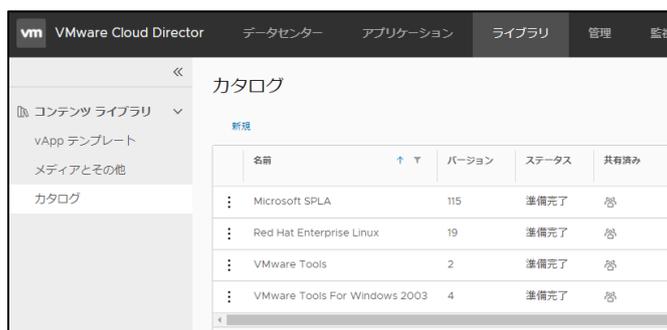


図 14.9.3 カタログを削除する-3

15. パスワードを変更する

現在使用しているユーザーのパスワードを変更する手順について説明します。

- ① 画面右上にあるユーザー名部分をクリックし、[パスワードを変更]をクリックします。



図 15.1 パスワードを変更する-1

- ② 現在のパスワード、新規パスワード、新規パスワードを確認 を入力し、[保存]をクリックします。

A screenshot of a 'パスワードを変更' (Change Password) dialog box. It contains a warning message: 'パスワード変更後にログアウトされます'. There are three input fields: '現在のパスワード' (Current Password), '新規パスワード' (New Password), and '新規パスワードを確認' (Confirm New Password). The input fields are highlighted with a red box. At the bottom right, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save), with the '保存' button also highlighted with a red box.

図 15.2 パスワードを変更する-2

- ③ 正しくパスワードが変更できるとログアウトされます。

付録 1. ライセンスについて

本サービスで作成した仮想マシンの OS・ソフトウェアのライセンスについて説明します。

付録 1.1 Microsoft 社製品 (OS・ソフト) をご利用の場合

当社が提供するライセンス (Microsoft Services Provider License Agreement (SPLA)) が必須となります。

SPLA をご利用の場合、ライセンスにつきましては当社からの貸し出しとなります。

この場合、ライセンスの利用については Microsoft 社の『エンドユーザーライセンス条項』が適用されます。

但し、Microsoft Software Assurance for Volume Licensing (SA) をご利用の場合、当社が提供する SPLA は不要です。お客様がお持ちの SA をご利用ください。

上記以外のお客様がお持ちのライセンスやお客様が個別に購入したライセンスが利用できませんのでご注意ください。

なお、本サービスで提供する仮想マシンテンプレートにはすでに SPLA が登録されています。SA をご利用の場合はライセンスの変更をお願い致します。

付録 1.2 RedHat 社製品 (OS) をご利用の場合

RedHat 社の以下の契約に同意頂く必要があります。

RED HAT END USER LISENCE AGREEMENT (EULA 契約) Red Hat 社が提供するソフトウェアライセンスの使用に関する契約 http://jp.redhat.com/licenses/RHEL_EULA_JAPAN.pdf
RED HAT ENTERPRISE AGREEMENT (EA 契約) ソフトウェアライセンス以外の Red Hat 社のサポートサービスに関する http://www.jp.redhat.com/licenses/Enterprise_Agr_Japan.pdf
Cloud Software Subscription Agreement (CSSA 契約) クラウド上で利用する Red Hat 社のソフトウェア サブスクリプションに関する契約 http://www.redhat.com/licenses/cloud_cssa/Cloud_Software_Subscription_Agreement_Japan.pdf

また、当社がライセンスを提供する場合は〔月額提供サービス〕をご利用頂く必要があります。

付録 1.3 上記以外の製品 (OS・ソフト) をご利用の場合

販売元にご確認ください。

さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス VMware Cloud Director 利用マニュアル

2020年12月11日	第1版
2021年1月26日	第2版
2023年10月2日	第3版

株式会社さくらケーシーエス
データセンター

Copyright© 2017 - 2023 SAKURA KCS Corp. All Rights Reserved.

本書に記載されている情報、事項、データは、予告なく変更されることがあります。

本書を弊社に無断でその一部、あるいはその全部を複写、複製（コピー）、追加、削除、加工および転載することを禁じます。